



吉川末華さん(左)と横田理沙さん(右)

吉川末華さんと横田理沙さんは共に高校2年生。「中央小学校子ども会」のキックベースボールチームで小学生の3年間、そして中学生の大会にも3年間頑張ったキックベース仲間。その二人が今OGとして練習のお手伝いをしています。

「去年の10月、家の窓から子が爆発して、どんどんいいプレーがつながっていき時が楽しかった。何よりも動き回るのが楽しかった」と、キックベースの楽しさを語ってくれました。

手伝い始めた時はミカちゃん、リサちゃんと、ちゃん付けだったのに最近では呼び捨てされるほど子どもたちに慕われている2人。「今の小学生はちよつと生意気な面もあるけれど、一生懸

命に頑張っていて、みんなかわいい妹たちです」とニコニコ。5月に行われた中央区の大会にも応援に駆けつけた。初戦は動きが固くヒヤヒヤしましたが、見事に優勝。子どもたちと一緒に嬉しさを分かち合いました。

中央区の代表として7月10日大阪で行われる大阪府大会に向けて子どもたちは猛練習中。「試験前や用事があるときはお手伝いに行けないけれど、これからも続けていきたい」とのこと。

「リサちゃん、将来は監督しいや」と吉川さん。「もし誰も面倒を見る人がいなくてキックベースボールチームがなくなってしまうというんやったらやるよ(笑)」と横田さん。

元気いっぱい、子ども大好き、そしてキックベース大好きなキラキラと輝く二人でした。最後にキックベースをやった



チームのみんなと関係者と一緒に嬉しい優勝の記念撮影(中央区の大会)。

キックベースボール最高・大好き!!

からほり新聞

第7号
(2005.6.25)

「空堀界限をご散策される皆様へ」

- ◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
- ◆美しい石畳や木造家屋に「ミ」は似合いません。
- ◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

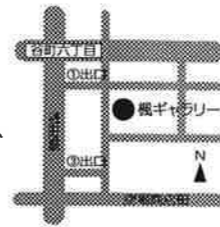
いてよかったことを聞くと、「同じ学年だけでなく、学年を超えて仲間ができたこと」そして、「がんばることの楽しさを学びました」と教えてくれました。

からほり伝言板

かみなり亭寄席
奇数月の第2土曜日午後6時30分より。会場:葉業年金会館。出演:笑福亭一門ほか。問い合わせ:06-6768-3549

楓ギャラリー www.comint.ne.jp/kaede/

▶7/5~10 清東節江展<和紙・アクリル着彩・密蝋> ▶7/12~17 刑部富美展<版画> ▶7/19~24 植村佳菜子展<インスタレーション> ▶7/26~31 "土の香り、人の薫り"にぎわい展<書・染織・陶・縫・花・絵・クラフトなど> ▶8/2~7 アートなTシャツ展 ▶8/30~9/4 森妙子展 "re thinking of peace project" <和紙によるドローイング> ▶お問い合わせ6761-0388



はいからほり商店街「懐かしい夜店とお地藏さん」
▶8月27日(土)午後5時から。好評につき今年も夜店で大にぎわい。ボランティアスタッフも募集(6761-2862 青山)

☆編集後記

◆行きつけの店が最近やってない。いつもいた人たちは、どこいったらんだろ? サテ、コンヤハドコイコ。(山本)

◆石津謙介さんが93才で亡くならた。51年、今のアメ村クロセイの壁画の所で創業。VANは信仰であった。(山名)

◆三日月眉毛と黒田の瞳。近所のお地藏さんは、明らかに誰かが後で描いたお顔。その想い

◆に手を合わせてる。(高田)

◆実家の母がギックリ腰に。田植えの手伝いに田舎に帰ろうかなあ。カエルも鳴いて呼んでいる。(干場)

◆梅雨の時期になりました。雨嫌いの僕ですが、雨が降る前の「におい」はなんとも言えずいいですね。(山添)

◆「さろん」に雀が来るようになり、「会員になって」とパンをまいてます。(永井)

◆次号は秋の発行を目指す(嶋)

特定非営利活動法人

高齢者外出介助の会とは?

お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。

- ①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
- ②在宅支援(家の修理、家具の移動)
- ③入院支援(入退院時同行、洗濯、買い物など)
- ④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、絵手紙くらぶなど)
- ⑤大阪の文学を読む会(学び)
- ⑥車椅子、シニアカー貸出
- ⑦「からほり新聞」制作

お気軽にお問い合わせください。

大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
(おとうぶ屋さんのおとなり)
TEL&FAX 06-6764-4002
月~金(10:30~15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: www9.ocn.ne.jp/~ode-kake/

高齢者外出介助の会 News

【からほり・さろん】誰か話し相手がほしいな...。商店街に買い物に来たけどちよつと休んで行こう。理由など要りません。どなたでも歓迎です。また、楽しみに作られている趣味の作品などありましたら展示します。声を掛けてください。皆さんのご意見を生かし運営していきたいと思っています。

【差し上げます】手動英文タイプライターあります。

【協力ください】書き損じはがき集めています。

【ご参加ください】

【絵手紙】毎月第4水曜日、午後1時30分~
講師:山名 勝さん

【大阪の文学を読む会】毎月第3金曜日、午後1時30分~
講師:福田紀一さん

土曜サロンのご案内

- 7月2日▶映画上映会「親ばか子ばか」天外・寛美
- 7月2日~16日▶写真展「野の声・虫の声」
- 9月3日▶あそびましょう「おじゃみを作ろう」
- 9月17日▶お話し「介護者を支える人の輪を作ろう」

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださいのお店も大募集。

「からほり新聞に参加したいな」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。(現在45力所設置)

マリンバを楽しみませんか?

毎週木曜日「からほりさろん」で教室をしています。
見学・体験(1回)大歓迎!!

くわしくは高齢者外出介助の会でお聞きください。

指導:北口 桂

司法書士 干場悦子(ほしば・えつこ)

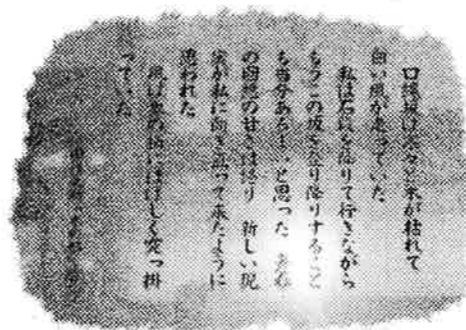
不動産登記全般/売買、贈与、相続登記など
会社の登記全般/成年後見、遺言書作成相談

中央区松屋町3番23号 第一松屋ビル772号室
桜井義浩司法書士事務所内

TEL.06(6764)0889 お気軽にお問い合わせ下さい。

織田作之助著 「木の都」

一九四四年（昭和十九年）織田作之助は小説「木の都」を雑誌『新潮』に発表した。「大阪は木のない都だといわれているが、しかし私の幼時の記憶は不思議に木と結びついて」で始まり、生まれ育った上町台地を舞台にひっそりと健気に生きる父と姉弟との交渉を描いた作品である。



口縄坂の上にある織田作之助の記念碑「木の都」の最後の一節が刻まれている。

禁処分をうけ、時局にふさわしくない作家として冷遇されおり、しかも一九四四年には高等学校以来の親友の死と最愛の妻の死というもつとも苛酷な出来事に遭遇している。本来は戯作の立場に身を置いて、私小説の立場を排除している作者が、この小説では、作り物の形をとりながら、自分に向かい合って静かに青春を見つめ直したといつていい。

一九四四年といえば、私自身、作者の卒業した旧制府立高津中学校（現在の高津高校）の三年生だった。今の上町台地の難波宮跡公園一帯は、歩兵第八連隊や被服廠など陸軍の施設が建ち並んで一般人は近寄ることもできず、一キロメートル余り離れた、当時の高津中学校の隣地が仁徳天皇宮跡の聖地とされて、古くから頭影の大きな石碑が建立されており、私たち中学生は登

下校には脱帽して石碑に最敬礼することを義務づけられていた。織田作之助の存在は知っていたが、発禁処分になった、不名誉な卒業生くらいの関心しかなかった。

一九四五年大阪はB29の大空襲を何度もうけて、「木の都」の舞台となった庶民の町は焦土と化した。

敗戦とともに、織田作之助は、太宰治、坂口安吾らとともに、文壇の寵児となり、いわゆるアプレゲール作家*として伝説化された。（※Greensquare伝語のち）（大戦戦後派。）

一九四七年、織田作と愛称された作家は、東京で客死する。伝説化された虚像を取り除くことも、現代のわたしたちの仕事だろう。



「木の都」の舞台になった口縄坂（四天王寺夕陽丘駅下車）

けら子の介助日記

助け合いは元気の種

高齢者外出介助の会 事務局長 永井佳子

高齢になるとせっかちなになるのでしょか。Aさんから、「葉が切れたから病院行って取ってきて」と、急ぎの電話が入りました。「依頼は、ボランティアを探す時間が必要なので一週間前までに」と、お願いしているのですが、Aさんは時々急な依頼をされるのです。この日も「またや、どうしよう」と、困りました。少し考えて、電動椅子でボランティアに参加して下さっているYさんに助けを求めました。連絡すると、Yさんは快諾してくれて、病院まで薬を取りに行き、私たちの会に届けてくれました。そして、Aさんの自宅までは別の会員に届けてもらいました。

数日後、「病院で聞いたけど、車椅子の人が私の薬を取りに行ってくれた」と、Aさんから「ありがとう」と、Aさんからお礼の電話をもらいました。私は、Yさんが病気で歩けなくなったことや、それでも車椅子で何処へでも出かけていることなどを話しました。すると、Aさんの声が明るくなりました。いつもは、急な依頼を受けて「もう少し早めに連絡を」と、お願いしても、「痛いから歩けない。私の苦しみは人には分らない」という雰囲気一杯なのですが、さっと、足の動かない車椅子の人が出かけてくれたことに、申し訳なや、ありがたさを感じたのでしよう。自分より体の悪い人が動いてくれたことに励まされて、「自分も頑張る」と、思ったのかもしれない。声が変わったことで、そんな気持ちも伝わってきました。私自身も、助け合うことで、係わりあってお互いに勇気や元気をもらう関係なんだと気付きました。



この度のJR尼崎事故で、停車駅が一駅増えたのに所用時間は変わらないダイヤが組まれていたと報道されました。停車時間が短くなると障害者や高齢者は遠慮しなやかなのかと考えるし、まいます。交通弱者は周りの雰囲気やプレッシャーを受けますよね。「早よ乗らなダイヤ遅れるやないの！」どこからか声が聞こえてきそうです。障害者も高齢者も普通に社会参加出来るようにと言うのが、4人に1人が65才以上の超高齢者社会を迎えるこの国の目標で、交通バリアフリー法制定や介護保険見直しなど、法律や社会制度を整えて来ています。関西では車いすで鉄道に乗るのは当たり前と思っ

ていますが、米原から東ではJRは車いす乗車を一般乗客に迷惑をかける

存在と考えているようです。JR6社の中では、JR西日本は車いす乗車に一番理解がある会社なんです。運転再開に向けて、ゆとりダイヤが発表されましたが、それでも停車時間は1駅数秒延長されただけです。本当に安心して乗車できるようにするためのでしょうか？ JRで一番交通弱者にやさしい会社として、他のJR各社の模範になるような運行をして欲しいと願います。安全を理由に車いすでの列車乗車などに、今まで以上に制約がかかっているのが困ります。誰でも安心して自由に乗車できるように、鉄道の結果安全のために、スピードや便利さは、どう折り合いをつけていくのが良いのでしょうか。皆さんのご意見をお寄せください。

地域に根ざした真心のケアがモットーです。
(有)ライフ・ステージ(寝具の白石)

介護のことなら
ケアサポート「欄だまり」
中央区上本町西3-3-24 ☎6767-1131

家庭的な雰囲気の中でできる空間
デイサービスセンター「欄だまり」
中央区上本町西1-3-17 ☎6767-1300

2級ヘルパー養成講座開始予定。お問い合わせ下さい。

おいしさ絶品! 平田商店

お好み焼き
やきそば
たこ焼き

●エール からほり商店街
●平田商店 ●コスモGS

中央区瓦屋町1-6-6 TEL06-6761-1090

赤い羽根共同募金
10月1日▶12月31日

地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援ご参加をよろしくお願い致します。●募金のつかいみちを詳しくお知らせしています。ホームページをぜひご覧下さい。
http://www.akaihane-osaka.or.jp (赤い羽根おおさか)

●ご寄付は郵便振替で、大阪府共同募金会あて
郵便振替 00990-8-220番(手数料はかかりません)

筆・硯
半紙

書道具一式

筆聖硯紙
玉林堂

〒542-0012 大阪市中央区谷町6丁目4-8 新空堀ビル1F
TEL 06-6763-0045 FAX 06-6768-4856
http://www.bell.ne.jp/gyokurin/



維新派の舞台は、オペラに近い。役者のセリフは大阪弁のイ...

静やかな人だ。「からほりは、下駄履きで歩ける。肌馴染みのええ町ですね」...

創作で煮詰まった時などは、この界限をよく散歩する。「路地と坂が多いのがええですね」...



(高田次郎)

快傑！からほり人

快傑ファイル其の六

劇団維新派主宰 松本雄吉さん

松本さんが主宰を務める「維新派」は、大阪を拠点に活動する劇団だ。独自の世界観と官能をゆさぶる芸術性は評価も高く...

松本さんは大学時代に美術を専攻していた頃に、より感覚的な表現を求めて舞台にたどり着いた。一九七〇年に維新派の前...

松本さんの中には、そうした感覚が自然にわき上がるらしい。下駄履きで歩ける、坂が多い、路地にアジアが見える...

目についたモノや話題をこった煮感覚でピックアップ

勝手にからほり 雑見ニュース

ちびっこギャラリー開催中



空堀商店街で子供の絵を展示する催しが行われています。商店街協同組合が、お客さんに喜ばれる企画をと...

しょうき 鍾馗さんって知ってますか。



昔は街角のここかしこに掲げられていましたが、どんどん消えていき空堀地区でもわずかしが残っています...

井邸」の大屋根の西側に1体、古い鍾馗さんが残っています。鍾馗研究家の服部さんは「沢井邸の鍾馗は古い立派なものです」...

「鍾馗」：疫鬼を退け魔を除く神のこと。中国の唐時代、玄宗皇帝が病に伏しているとき、先代の皇帝に使えていたが武功を挙げられず自殺した鍾馗が夢枕に現れ、魔を払い病を癒やしたという伝説から神格化されたもの。

すが、何故か大阪では鍾馗さんをあげている家はあまりありません。」と話しています。

子育て大忙し！



空堀商店街で3ヶ所、ツバメが子育て奮闘中です。三角アーケードの蛍光灯に巣を作り、昔からの昇薫堂さんの上、数年前からの松竹堂さん、宇治茶園さんの所です。商店街の中を3組のツバメ夫婦が食べ盛りの子供たちに、せつせと餌を運ぶため、飛び交っています。松竹堂さんの奥さんは「毎朝フン掃除が大変ですが、ツバメが巣を作ってくれるのは嬉しいことです。」と見守っています。



四季折々の情緒が楽しめる ギャラリーショップ

谷町六丁目駅の南側にある「Ori Ori」は、自然素材を使った織物のクロスや衣類などの作品を展示販売しているギャラリーショップです。「からほりは、エエとこやなっと思つて、前から物件を探してたんです」と、オーナーの州崎英美さん。「わたしの作品のほかにも常時一四、一五名くらいの知り合いの作家の作品を展示販売しています」とのこと。

Ori Ori

★営業時間・12時30分～18時30分
★定休日・毎週水曜日と第3木曜～土曜日
★電話・06-6764-1223

か ら ほ り 界 隈 お 散 歩 M A P

～其の7『鉄の町? からほり』の巻～



からほり・さろん
高齢者外出介助の会

←→ 今回紹介したスポット
○ 今回紹介したエリア

○番号は地下鉄の出入口です。



長堀通に今も残る焼印屋さんです



手作業で焼印を作る姿はまさに職人!

暑い季節がやってきました。公園の木陰や路地裏の軒先で少し涼みながらぼんやりしていると、昔この界隈はどんな雰囲気だったのかなあと、ふと考えてしまいます。そういう空想に誘う魅力が、空堀・谷町・長堀通界隈にはあります。今回は、今はもう遠い昔の谷町周辺のお話をみなさんにご紹介しましょう。

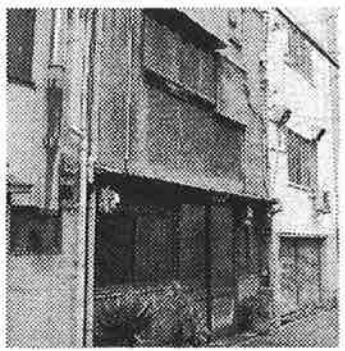
谷町が「鉄の町」だったことをご存知なのは、昔からのこの界隈の住人だけではないでしょうか。

「昔、谷町6丁目あたりから北は、洋服屋さんの町だったよ。そこから南、楠木通あたりまでは鉄の町だった。機械工具の店やベアリング屋さんや、うちみたいな焼印・刻印屋が並んでたで」と話してくださったのは、長堀通に今も残る焼き印屋のご主人。谷町筋から「鉄の町」の面影は薄れ、長堀通のお店が変わらず操業しているのには理由があります。昔の谷町筋は今よりずいぶん道幅が狭く、戦後の道路の拡張工事を機に、鉄に関する仕事に携わっていた職人たちは東大阪市方面に移転し

たそうです。一方、長堀通は、心斎橋から谷町6丁目を曲がって天満橋に抜ける市電が通っていたので、昔から道幅は今とさほど変わらず広かったのです。そのため、立ち退きもなかったというわけで、長堀通には同じ理由でもう一軒昔ながらの焼印・刻印屋さんが残っています。確かに谷町筋には古い建物はあまり見られませんが、路地をひとつ入ると、今も昔の名残りを感ずることが出来ます。戦後から今も変わらない建物で金属加工を行う町工場。長屋のひとつを倉庫として使う工場。そして大通りを歩いていると気づくことができない、町工場のおいと音。そこには昔のままの「鉄の町」があります。今回は、谷町筋界隈を取り上げていますが、上町筋、松屋町筋界隈にも町工場が多く操業しています。是非皆さんの足で歩いて、町工場のおいと音を楽しんでください。

編集部では色々な町の歩き方を探しています。少し見方を変えると楽しい。そんなあなただけの町の歩き方を教えてください。

干場悦子、山添晋太郎

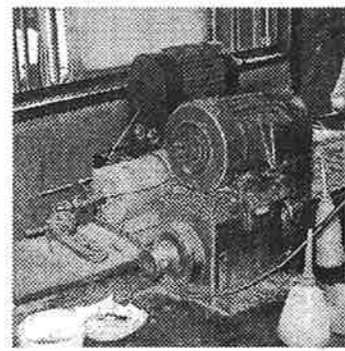


中からは「町工場の音」が。写真には写りません。残念!

⑤



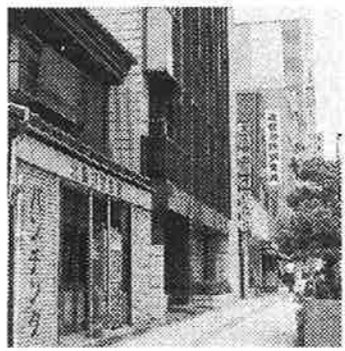
長屋のひとつが鋼工場の倉庫として使われています



「ろくろ」と呼ばれる金属加工の機械です



谷町筋から路地に入ると「町工場のおい」が漂います



長堀通には金属関係の会社が今でも多く操業しています

④